

令和５年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」に関する  
成果報告書

- 1 委託事業の内容  
「専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証」
- 2 事業名  
「福祉・介護分野における中核的人材養成に向けた高専一貫教育プログラム開発・実証事業」
- 3 分野  
福祉【介護人材】
- 4 代表機関

|         |                     |
|---------|---------------------|
| 法 人 名   | 北海道栗山町              |
| 代 表 者 名 | 栗山町長 佐々木 学          |
| 学 校 名   | 栗山町立北海道介護福祉学校       |
| 所 在 地   | 北海道夕張郡栗山町字湯地 6 0 番地 |

北海道栗山町

## はじめに

少子高齢社会の進展により、今後も高齢者人口のピークが続くとともに、人口減少が加速化すること見込まれている。介護人材の確保はますます困難となることが予想され、介護福祉士はもとより介護福祉士以外の介護職、さらには多様な担い手や手法で、地域住民が主体となって地域共生社会を構築する必要がある。

本町では早くから高齢社会の到来を見据え、介護の必要性を認識し、昭和62年の社会福祉士及び介護福祉法に基づく国家資格「介護福祉士」創設を契機に公立の介護福祉士養成校として北海道介護福祉学校を昭和63年に開校し、福祉のまちづくりを掲げてその充実・深化に努めてきた。

本校が掲げる教育目標に基づき、豊かな人間性や、日々進化する高度な知識・技術に対応できる人材の育成に尽力しており、これまで30年余に渡り2千2百人以上の卒業生を輩出し、道内各地の介護人材育成に寄与している。

既に本町では介護人材確保に向けた対策を協議する場として、行政（町及び教育委員会）、介護福祉学校、産業界（町内介護事業所等）が連携し、「栗山町介護人材確保連絡会議」等を設置し、課題解決に向けた議論を深めている。

これらを踏まえ、本校の存在意義を発揮し、介護分野においてその中核を担う介護福祉人材を養成するため、新たな教育モデルの開発を目指したいと考え、現在、連携協定を締結している栗山高等学校との連携をより強化・発展させるとともに、行政と産業界が協働し、高・専一貫の教育プログラムの開発に必要な体制として、連携組織

「魅力化コンソーシアム（図1）」を構築し、発展的な事業展開を行うとともに、専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発及び実証を目指すものとして、令和4年10月3日に本事業にかかる委託契約を締結している。

なお、参画主体・参画レベルは、各分野・地域から人的・物的協力などを得ることでプログラムの実効性や事業の効率性を高め、社会に求められる人材ニーズに基づいた教育プログラムを開発し、産業界とも連携を図り、介護人材確保に資するものとしている。なお、**本事業は令和4年度から受託しており、本年度から実証授業を本格的に実施することになった。なお、令和4年度の内容に関しては、前年度実績報告書を参照されたい。**

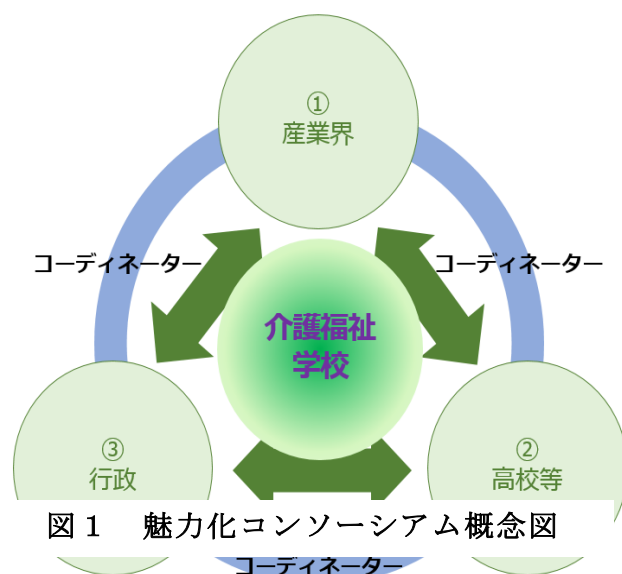


図1 魅力化コンソーシアム概念図

## 1 本町の福祉教育

本町はこれまで「福祉のまちづくり」を掲げてきた。現在、第7次総合計画が策定されているが、まちづくりの合言葉は「ふるさとは栗山です。～みんなが元気なまち～」として、人がるながら元気あふれる人生100年を目指している。

本校はこれまでの間、特徴的な取組として、北海道介護福祉学校の専任教員が町内小中高の児童生徒に対して行う「福祉」の学習指導や介護福祉学校の在校生が中心となり町内の小中学校及び北海道栗山高等学校と連携し、義務教育（小学校）における総合学習、土曜授業、また中学生の上級学校訪問等に対応してきた。

栗山高等学校とこれまでの連携協定に基づき、発展的に事業展開を図ることが求められることから選択科目「生活と福祉」への教員派遣と、新たに令和5年度から栗山高校の必修科目となった「栗山と福祉」のカリキュラム作成、授業実施等を実施してきた。なお、「栗山と福祉」の科目が栗山高校において3年間継続の必修科目となったことから従来までの連携協定に基づくプログラムでは高校2年間の空白と3年生選択科目履修生のみとの接点でしかないという課題が解消されることになり、小中高等学校の12年間を「一つの学び」として捉えることができるスキームが出来上がった。そこに地域住民をも巻き込んだ体系（図2参照）が明確になった。

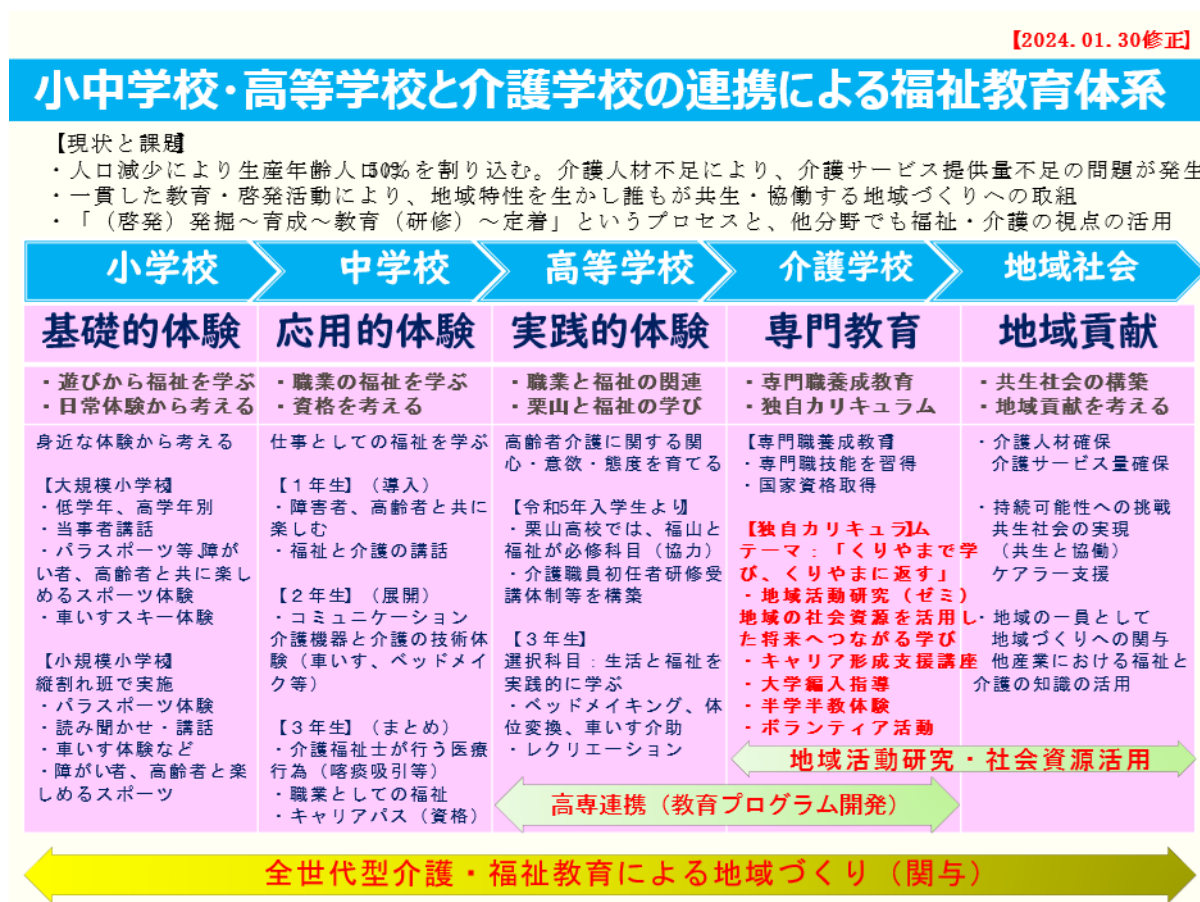


図2 本町における福祉教育体系のイメージ

今後、これらのイメージ図を参考に、栗山に住むすべての子どもたちが地域の人々との触れ合いや体験活動を通して、「支える・支えられる」「教える・教えられる」という対極の関係ではなく、地域に生きて暮らしている以上、互いを思いやり、助け合い、励まし合いながら、自分たちの住むこの栗山を誇りに感じ、自らがこのまちの担い手としての自覚を持つための教育、ある意味地域共生社会の実践を進め

ていく必要がある。

これらに加え、今後も少子高齢化と生産年齢層の減少といった人口構造が変化する社会において「福祉・介護の知識を有する人材」を養成すること、「支える人を支える」地域づくりには意義があることから、本事業の2年目の取り組みになったものである。

## 2 令和5年度の取り組み

### (1) 教育プログラムの策定概要

#### ①栗山高校のスクールポリシー

高専連携プログラムを開発するにあたり、令和5年度入学生より「栗山町の自然や暮らし、介護・福祉に興味関心があり、地域の課題解決に主体的に取り組む生徒」と一部スクールポリシーが変更になっている。

#### ②栗山高校における総合科目「栗山と福祉」の開始

令和5年度入学生より総合科目「栗山と福祉」が新設となり、必修科目として生徒全員が3年間で計105時間学習することになった。令和4年度に検討・作成したカリキュラムに基づき実証授業を展開した。

#### ③「栗山と福祉」のカリキュラム作成（開発したプログラム）

令和4年度に栗山高校と北海道介護福祉学校間で協議を行い作成した「栗山と福祉」の学年別テーマ（表1参照 「栗山と福祉」の学年別テーマ）及び1年次カリキュラム（表2参照 「栗山と福祉」（1年） 令和4年度作成）に基づき授業を展開した。

表1 「栗山と福祉」の学年別テーマ

栗山高等学校 総合科目「栗山と福祉」の学習テーマ

#### 【1年次の学習内容】

栗山町の高齢化の現状と福祉の歴史を学び、課題を発見する。また、さまざまな活動を通して介護や福祉についての興味・関心を養う。

#### 【2年次の学習内容】

介護の基礎的な技術を学びながら、職業としての介護や福祉についての理解を深める。

#### 【3年次の学習内容】

地域社会の一員として、自らにできることを考え、実践する力を身につける。

表2 「栗山と福祉」（1年） 令和4年度作成

| 【学習テーマ】                                                     |    |                                |              |
|-------------------------------------------------------------|----|--------------------------------|--------------|
| 栗山町の高齢化の現状と福祉の歴史を学び、課題を発見する。また、様々な活動を通して介護や福祉についての興味・関心を養う。 |    |                                |              |
| 回                                                           | 月  | 学習内容                           | 講師・会場等       |
| 1                                                           | 4  | オリエンテーション（3年間の流れ）・ポートフォリオ配付    |              |
| 2<br>3                                                      | 4  | 映画で学ぶ福祉（映画鑑賞）                  | こんな夜更けにバナナかよ |
| 4                                                           | 4  | 映画で学ぶ福祉（映画鑑賞）・感想記入             |              |
| 5                                                           | 5  | 出張講義：くりやまの福祉の歴史と今              | 介護学校         |
| 6                                                           | 5  | 出張講義：くりやまの福祉の歴史と今              | 介護学校         |
| 7                                                           | 5  | 調査：くりやまの福祉サービス                 |              |
| 8                                                           | 5  | 見学）福祉施設訪問（くりのさと）               |              |
| 9                                                           | 5  | 見学）福祉施設訪問（くりのさと）               |              |
| 10                                                          | 5  | 講義：福祉・介護のICT化を知る（ロボット体験）       | 介護学校         |
| 11<br>12                                                    | 6  | 実習）介護学校での介護実習（車いす・歩行介助）        | 介護学校         |
| 13<br>14                                                    | 6  | 実習）車いすで町に出てみよう                 | 介護学校         |
| 15<br>16                                                    | 6  | 車いすで町に出てみよう・まとめ（グループワーク）       |              |
| 17                                                          | 6  | 車いすで町に出てみよう・まとめ（グループ発表）        |              |
| 18                                                          | 7  | 手話講座（手話ソング）                    | 栗山手話の会       |
| 19                                                          | 7  | 手話講座（手話ソング）                    | 栗山手話の会       |
| 20<br>21                                                    | 9  | 実習）介護学校での介護実習（視覚障がい体験）         | 介護学校         |
| 22<br>23                                                    | 9  | パラスポーツ体験                       | 岩教大          |
| 24<br>25                                                    | 9  | 盲導犬協会 講演                       |              |
| 26                                                          | 9  | 盲導犬協会 講演・感想                    |              |
| 27<br>～<br>34                                               | 10 | 見学）福祉系大学・介護福祉施設<br>・事前、事後指導を含む |              |
| 35                                                          | 3  | 一年間の活動を振り返る、まとめ                |              |

・今後、関係機関等と調整する中で変更する場合がある。

・介護学生と栗山高校生の合同授業を調整

これらの授業を展開すると同時に高校、専門学校双方の学校行事等及びより精度の高いものとするために随時、担当者間で協議を行い、1年次カリキュラムの修正しながら実証授業（表3参照 「栗山と福祉」（1年） 令和5年度実績）を実施した。

表3 「栗山と福祉」（1年） 令和5年度実績

| 【学習テーマ】                                                     |       |                                   |                   |
|-------------------------------------------------------------|-------|-----------------------------------|-------------------|
| 栗山町の高齢化の現状と福祉の歴史を学び、課題を発見する。また、様々な活動を通して介護や福祉についての興味・関心を養う。 |       |                                   |                   |
| 回                                                           | 月     | 学習内容                              | 講師・会場等            |
| 1                                                           | 4/26  | オリエンテーション（3年間の流れ）・ポートフォリオ配付       |                   |
| 2・3                                                         | 4/26  | 映画で学ぶ福祉（映画鑑賞）                     | こんな夜更けにバナナかよ      |
| 4                                                           | 5/19  | 出張講義：くりやまの福祉の歴史と今                 | 介護福祉学校            |
| 5                                                           | 5/23  | くりやまの福祉サービス                       |                   |
| 6                                                           | 7/14  | 手話講座（手話ソング）                       |                   |
| 7                                                           | 7/18  | 手話講座（手話ソング）                       |                   |
| 8<br>9                                                      | 9/14  | 実習）介護福祉学校での介護実習（車いす介助・歩行介助）       | 介護福祉学校            |
| 10-13                                                       | 9/21  | 合同演習：車いすで街に出てみよう（介護福祉学校学生と合同授業）   | 介護福祉学校<br>栗山公園    |
| 14・15                                                       | 9/22  | 車いすで町に出てみよう・まとめ                   |                   |
| 16                                                          | 10/5  | 出張講義：高齢者とのコミュニケーション               | 介護福祉学校            |
| 17<br>18                                                    | 10/10 | 施設見学：特養くりのさと<br>学校見学：介護福祉学校       | 特養くりのさと<br>介護福祉学校 |
| 17<br>18                                                    | 10/11 | 施設見学：特養くりのさと<br>学校見学：介護福祉学校       | 特養くりのさと<br>介護福祉学校 |
| 19<br>20                                                    | 11/6  | 実習）介護福祉学校で介護実習（視覚障害者体験）           | 介護福祉学校            |
| 21・22                                                       | 11/8  | 講演 盲導犬協会                          |                   |
| 23・24                                                       | 11/10 | 合同授業 パラスポーツ体験                     | 介護福祉学校            |
| 25-30                                                       | 11/14 | 見学）福祉系大学訪問・模擬授業体験                 |                   |
| 31                                                          | 11/20 | 事後指導 盲導犬、パラスポ、介護実習等）              |                   |
| 32・33                                                       | 12/6  | 合同授業 パラスポーツ体験                     | 介護福祉学校            |
| 34・35                                                       | 2/5   | 合同授業 福祉・介護のICT化を知る<br>介護機器・ロボット体験 | 介護福祉学校            |

※介護学校教職員、高等学校教員は随時授業に参加。計5回の来校授業。  
※高校生と介護学生の合同授業は4回実施。うち11月10日は地域公開（住民参加）

なお実証授業は講義形式、演習形式、出前授業、合同授業（高校生・専門学校生の合同による授業）の形態として、介護福祉学校教職員、高等学校教員は随時授業に参加している。高校生が専門学校の機能・設備を利用する形で受講した授業（来校授業）は計5回となった。また、高校生と介護学生の合同授業を4回実施した。そのうち1回は地域住民参加型の地域公開として実施することができた。

それらの実証授業を踏まえて修正版1年次カリキュラム（表4参照）を作成した。

表4 「栗山と福祉」1年次カリキュラム（修正版）

| 【学習テーマ】                                                     |    |                                   |                   |
|-------------------------------------------------------------|----|-----------------------------------|-------------------|
| 栗山町の高齢化の現状と福祉の歴史を学び、課題を発見する。また、様々な活動を通して介護や福祉についての興味・関心を養う。 |    |                                   |                   |
| 回                                                           | 月  | 学習内容                              | 講師・会場等            |
| 1                                                           | 4  | オリエンテーション（3年間の流れ）<br>ポートフォリオ配付    |                   |
| 2・3                                                         | 4  | 映画で学ぶ福祉（映画鑑賞）                     |                   |
| 4                                                           | 5  | 出張講義：くりやまの福祉の歴史と今                 | 介護福祉学校            |
| 5                                                           | 5  | くりやまの福祉サービス                       |                   |
| 6                                                           | 7  | 手話講座（手話ソング）                       |                   |
| 7                                                           | 7  | 手話講座（手話ソング）                       |                   |
| 8<br>9                                                      | 9  | 実習：介護福祉学校での介護実習<br>（車いす介助・歩行介助）   | 介護福祉学校            |
| 10-13                                                       | 9  | 合同演習：車いすで街に出てみよう                  | 介護福祉学校ほか          |
| 14・15                                                       | 9  | 車いすで町に出てみよう・まとめ                   |                   |
| 16                                                          | 10 | 出張講義：高齢者とのコミュニケーション               | 介護福祉学校            |
| 17・18                                                       | 10 | 高齢者施設見学・学校見学                      | 町内高齢者施設<br>介護福祉学校 |
| 19・20                                                       | 10 | 実習：介護福祉学校で介護実習<br>（視覚障害者体験）       | 介護福祉学校            |
| 21・22                                                       | 11 | 講演 盲導犬協会                          |                   |
| 23・24                                                       | 11 | 合同授業：パラスポーツ体験                     | 介護福祉学校            |
| 25-30                                                       | 11 | 見学：福祉系大学訪問・模擬授業体験                 |                   |
| 31                                                          | 11 | 事後指導 盲導犬、パラスポ、介護実習等）              |                   |
| 32・33                                                       | 12 | 合同授業：パラスポーツ体験                     | 介護福祉学校            |
| 34・35                                                       | 2  | 合同授業：福祉・介護のICT化を知る<br>介護機器・ロボット体験 | 介護福祉学校            |

※介護学校教職員、高等学校教員は随時授業に参加。計5回の来校授業。  
 ※高校生と介護学生の合同授業は4回。  
 ※合同授業のうち1回は地域公開として、住民参加による啓発活動として実施する。

また、それに連動するよう２年次のカリキュラム（表５ 「栗山と福祉」 ２年次カリキュラム（修正版））及び３年次のカリキュラム（表６）も作成した。

表５ 「栗山と福祉」 ２年次カリキュラム（修正版）

| 【学習テーマ】                                 |    |                        |                      |
|-----------------------------------------|----|------------------------|----------------------|
| 介護の基礎的な技術を学びながら、職業としての介護や福祉についての理解を深める。 |    |                        |                      |
| 回                                       | 月  | 学習内容                   | 講師・会場等               |
| 1                                       | 4  | オリエンテーション（２年次の学習について）  |                      |
| 2・3                                     | 4  | 映画で学ぶ福祉（映画鑑賞）          |                      |
| 4・5                                     | 5  | 実習：介護実習（高齢者疑似体験）       | 介護福祉学校               |
| 6・7                                     | 5  | 実習：介護実習（ベッドメイキング）      | 介護福祉学校               |
| 8・9                                     | 5  | 実習：介護実習（体位変換）          | 介護福祉学校               |
| 10・11                                   | 5  | 実習：介護実習（衣服着脱・食事等）      | 介護福祉学校               |
| 12                                      | 5  | 介護実習振り返り               |                      |
| 13・14                                   | 6  | 手話講座                   | 栗山手話の会               |
| 15・16                                   | 8  | 合同授業：認知症 VR 体験講座       | 介護福祉学校               |
| 17・18                                   | 8  | 出張講義：認知症サポーター養成講座      | 介護福祉学校<br>地域包括支援センター |
| 19                                      | 9  | 出張講義：コミュニケーション方法を学ぶ    | 介護福祉学校               |
| 20・21                                   | 9  | 実習：高齢者インタビュー           | 介護福祉学校               |
| 22-24                                   | 10 | 合同実習：徘徊模擬訓練（地域住民参加型）   | 介護福祉学校               |
| 25                                      | 10 | 出張講義：ヤングケアラーについて考える    | 地域包括支援センター           |
| 26・27                                   | 11 | 合同授業：パラスポーツ体験          | 介護福祉学校               |
| 28                                      | 12 | 出張講義：福祉・介護の仕事を知る       | 介護福祉学校               |
| 29・30                                   | 12 | 合同授業：若手介護職員と学生のトークイベント | 介護福祉学校               |
| 31・32                                   | 2  | 合同授業：地域活動研究報告会参加       | 介護福祉学校               |
| 33・34                                   | 2  | 合同授業：キャリア形成支援講座参加      | 介護福祉学校               |
| 35                                      | 3  | 講義：２年次の活動を振り返る         |                      |

※介護学校教職員、高等学校教員は随時授業に参加。計７回の来校授業。  
 ※高校生と介護学生の合同授業は６回。  
 ※合同授業のうち３回は地域公開として、住民参加による啓発活動として実施する。

「栗山と福祉」は令和５年度入学生からの必修科目であることから、令和３年入学生（３年生）および令和４年入学生（２年生）は、これまで同様に３年時に選択科目「生活と福祉」で福祉について学ぶ。なお、令和５年度入学生（令和６年度時点での２年生）は、選択科目の「生活と福祉」が高校３年次に開講されないことから、その内容のうち介護技術を２年次で学習するように盛り込んでいる。

認知症理解に関しては、認知症の VR 体験講座、認知症サポーター養成講座、地域での徘徊模擬訓練と連動する形で地域住民を巻き込むよう体系化している。

加えて、28 回目以降の内容は、福祉・介護のキャリア形成をイメージするために、福祉・介護の仕事を知る、若手介護職員と介護学生のトークイベント、また、本校の独自科目である地域活動研究（ゼミ形式による地域でのフィールドワーク）報告会、さらには介護職からのキャリアデザインを知る講座へと連動させるようなカリキュラムとしている。

また「栗山と福祉」3 年次のカリキュラムには、2 年次に受講した認知症サポーター養成講座のステップアップ講座を盛り込み、学年間での連動性を持たせるようにしている。

あわせて令和 5 年度は必修科目「栗山と福祉」、3 年次選択科目「生活と福祉」（令和 6 年度末修了）の並行展開となったが、令和 7 年度以降のカリキュラムを意識して修正した。

表 6 「栗山と福祉」3 年次カリキュラム

| 【学習テーマ】                                                                                                    |    |                                     |                      |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-------------------------------------|----------------------|
| 地域社会の一員として、自らにできることを考え、実践する力を身につける。                                                                        |    |                                     |                      |
| 回                                                                                                          | 月  | 学習内容                                | 講師・会場等               |
| 1                                                                                                          | 4  | オリエンテーション（3 年次の学習について）              |                      |
| 2・3                                                                                                        | 5  | 手話講座                                | 栗山手話の会               |
| 4-8                                                                                                        | 9  | 町内高齢者へおのプレゼント制作                     |                      |
| 9・10                                                                                                       | 10 | レクリエーションを学ぶ<br>・レクリエーションに関する講義、演習   | 介護福祉                 |
| 11・12                                                                                                      | 10 | レクリエーションを企画する                       |                      |
| 13-15                                                                                                      | 10 | 認知症サポーターステップアップ講座                   | 介護福祉学校<br>地域包括支援センター |
| 16-18                                                                                                      | 11 | レクリエーション準備                          |                      |
| 19・20                                                                                                      | 12 | 演習：町内会との交流会                         | 中里町内会<br>社会福祉協議会     |
| 21・22                                                                                                      | 12 | 演習：町内高齢者等へのプレゼント配布<br>・地域での活動報告、まとめ | 社会福祉協議会              |
| 23-26                                                                                                      | 12 | 「栗山と福祉」発表準備                         | 介護福祉学校               |
| 27-30                                                                                                      | 1  | 「栗山と福祉」発表                           |                      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、関係機関等と調整する中で変更する場合がある。</li> <li>・外部との調整に関しては、随時実施する。</li> </ul> |    |                                     |                      |

選択科目「生活と福祉」（表 7 選択科目「生活と福祉」）が令和 6 年度末で終了となることから、「栗山と福祉」3 年次のカリキュラムに、従来まで組み込まれていたレクリエーションの内容を網羅し、実際に地域の町内会との交流なども行いながら、演習する内容へと修正している。

#### ④選択科目「生活と福祉」の内容策定（開発したプログラム）

令和5年度入学生から新科目「栗山と福祉」が必修科目とり、移行期間中（令和6年度末）までは、選択科目「生活と福祉」を継続実施する。これについても高校側と介護学校の担当教員間で調整している。そのうち連携して実施するものとして授業を4回計画し、そのうち3回を介護学校への来校型とし、1回は高校で実施することにした。その計画は次のとおり（表7）。

表7 選択科目「生活と福祉」（3年時選択）

| 年間予定 |     |                        |                    |
|------|-----|------------------------|--------------------|
| 回    | 予定月 | 学習内容                   | 講師・会場等             |
| 1    | 6月  | 介護実技：ベッドメイキング          | 講師 介護学校<br>場所 介護学校 |
| 2    | 6月  | 介護実技：ベッドでの体位変換と車いすへの移乗 | 講師 介護学校<br>場所 介護学校 |
| 3    | 6月  | 介護実技：車いす体験と杖での歩行介助     | 講師 介護学校<br>場所 介護学校 |
| 4    | 10月 | レクリエーションの基礎的・基本的知識の習得  | 講師 介護学校<br>場所 栗山高校 |

・実施時期に関してはほぼ確定。

令和7年度から選択科目は「フードデザイン」となる。これは食生活を総合的にデザインすることが目標であり、介護福祉士養成教育科目の一つである「生活支援技術」と関連づける可能性の検討は現段階において結論に達していない。

また今後、教科間連携を模索し、横断・総合的で深化する学びの内容・機会の提供について検討を加える余地を残している。

#### （3）令和5年度の実証授業

「栗山と福祉」1年次の実証授業として履修生徒50名に対して延べ13回（実回数11回）の実証授業を行った。その経過については次のとおり。

- ・令和5年5月19日（金） 出張講義 「栗山の福祉の歴史と今」
- ・令和5年9月14日（木） 来校授業 「車椅子介助・歩行介助」
- ・令和5年9月21日（木） 合同授業・学外実習「車椅子で町にでてみよう」
- ・令和5年10月5日（木） 出張講義 「高齢者とコミュニケーション」
- ・令和5年10月10日（火） 来校授業「介護福祉学校設備見学」（1組）  
施設見学「特養ホーム見学」（2組）
- ・令和5年10月11日（水） 施設見学「特養ホーム見学」（1組）  
来校授業「介護福祉学校設備見学」（2組）
- ・令和5年11月6日（月） 来校授業「視覚障害者体験」

- ・令和5年11月10日（金） 合同授業「パラスポーツ体験」（身体障害）
- ・令和5年11月14日（火） 福祉系大学訪問
- ・令和5年12月6日（水） 合同出張授業「パラスポーツ体験」（視覚障害）
- ・令和6年2月5日（月） 合同授業・来校授業「福祉・介護のICT化を知る」

これらに関して、介護学校教職員及び高等学校教員は随時授業に参加するというスタイルにして実施した。そのうち特筆すべきは11月10日のパラスポーツ体験を地域住民参加型の公開講座として、栗山町役場福祉課の協力を得て実施したものである。

#### （４）開発したプログラム：授業概要資料

##### ①栗山の福祉の歴史と今

##### 【授業概要】

|        |   |              |                                                        |
|--------|---|--------------|--------------------------------------------------------|
| 日      | 時 | 令和5年5月19日（金） | 14：20～15：10                                            |
| 場      | 所 | 栗山高等学校       | 視聴覚室                                                   |
| 対      | 象 | 者            | 北海道栗山高等学校1年生（50名）                                      |
| 担      | 当 | 者            | 高倉淳さん、栗山高等学校教員清水瑛樹先生<br>（介護福祉学校学校長、専任教員1名および高専連携支援員聴講） |
| テ      | ー | マ            | くりやまの福祉の歴史と今                                           |
| 講      | 師 |              | 栗山町元助役 高倉 淳 氏                                          |
| スケジュール |   |              | 14：20 高倉さん講義<br>15：10 終了                               |
| 使用物品   |   |              | 【栗山高等学校学校備品等】<br>プロジェクター1台                             |

##### 【授業の様子】



##### 【備考】

- ・栗山町に北海道介護福祉学校が出来た経緯
- ・福祉についてとその歴史
- ・今後社会人になるにあたって大切なこととは

## ②歩行介助と車椅子介助

### 【授業概要】

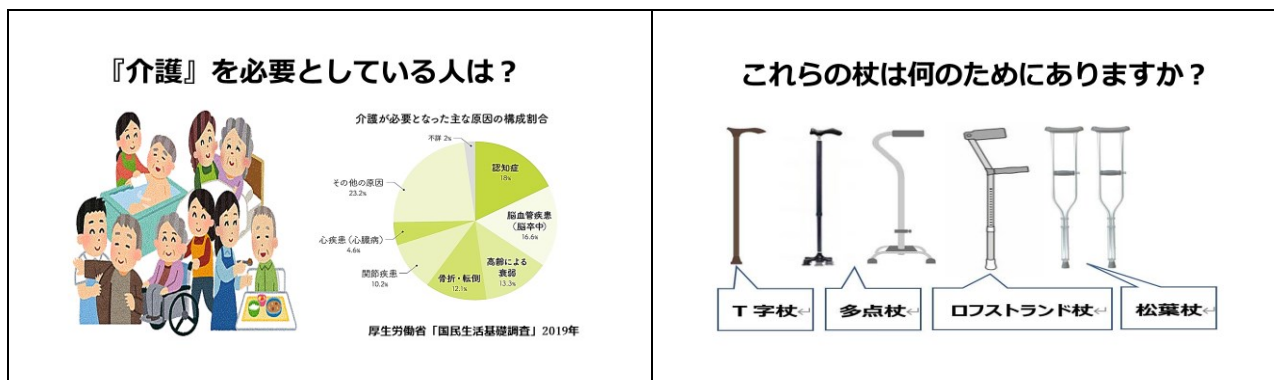
|         |   |                                      |             |
|---------|---|--------------------------------------|-------------|
| 日       | 時 | 令和 5 年 9 月 14 日（木）                   | 10：45～12：35 |
| 場       | 所 | 北海道介護福祉学校                            |             |
| 対 象     | 者 | 北海道栗山高等学校 1 年生（49 名）                 |             |
| 担 当     | 者 | 北海道介護福祉学校専任教員および高専連携支援員              |             |
| テ       | ー | 歩行の介護、車椅子の介護の基本                      |             |
| スケジュール  |   | 10：45 講義（介護のイメージ、介護に必要な心構え、高齢者の状態変化） |             |
|         |   | 10：55 体験演習Ⅰ：椅子への着座基本動作、介護動作          |             |
|         |   | 11：10 歩行介護について（杖の説明）                 |             |
|         |   | 11：15 休憩                             |             |
|         |   | 11：25 体験演習Ⅱ：車椅子の基本的機能、操作体験           |             |
|         |   | 体験演習Ⅲ：車椅子操作体験（段差、スロープ、砂利道）           |             |
|         |   | 12：00 本日の振り返り（体験で気づいた注意点、分かったこと）     |             |
|         |   | 12：25 終了                             |             |
|         |   | ※体験演習Ⅰ、ⅡおよびⅢに関しては、文末の備考欄参照           |             |
| 使 用 物 品 |   | 【北海道介護福祉学校備品等】                       |             |
|         |   | 車椅子 25 台、段差のセット（段差、スロープ、砂利道）T 字杖、多点杖 |             |
|         |   | ロフトランド杖、松葉杖                          |             |

### 【留意点】

- 1 体験を通して気づく大切さ
  - ①自分とは違う他者の気持ちを理解することは容易ではない。
  - ②相手と接し、話を聴くことで、その人の気持ちを汲み取る。
  - ③自らが介護を必要とする人を疑似体験することで考える契機に。
  - ④介護を必要とする人との信頼関係をつくるための心構えを養う。

### 【使用資料（パワーポイント一部抜粋）】

| 介護に必要な心構え ①（接遇）                                                                                                                                                                                        | 介護に必要な心構え ②（言葉掛け）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>○ 相手に対して配慮すること（心身の状況に応じて）<br/>→ ご本人ができないこと、継続してできること<br/>必要としていること・・・</li><li>○ 互いが心地よく過ごすための、<b>思いやりの気持ちと行動</b></li><li>○ <b>身だしなみや言葉遣い、態度も意識していく</b></li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>① 相手に何かを<b>伝える</b>とき・・・</li><li>② できることを<b>協力してもらう</b>とき・・・</li><li>③ 相手に<b>確認をする</b>とき・・・</li></ul> <p>例えば・・・</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ これから～をしますが、～でよろしいでしょうか？<br/>（説明） （同意）</li><li>○ ～を希望されているんですね。では、～をを行いますか？<br/>（意向） （提案）</li><li>○ 今のご気分はよろしいですか？ では、～の準備をしますか？<br/>（観察から確認へ） （協力への促し）</li></ul> |



## 【備考】

### 1 椅子への着座基本動作、介護動作

#### ① 私たちが普通に立ち上がる際

- ・ 膝位をつかむ
- ・ 膝より頭を前に出して前傾姿勢をとる
- ・ 頭を前に出すことでお尻が上がり立ち上がれる
- ・ 立ち上がった際は足を肩幅に広げ姿勢をまっすぐ正す

#### ② 立ち上がりの介護をする際

- ・ 正面には立たず、ふらついていても支えられる位置（横）に立つ
- ・ その方の出来る力を発揮してもらえよう過度な介護をしない

※②の介護をするにあたり①を自分で体験し、どのようなことを意識すればよいのかを考えてもらう

### 2 車椅子の基本的機能、操作体験

#### ① 車椅子はどのような時に使用するのか

#### ② 車椅子の名所説明

#### ③ 車椅子の広げ方、たたみ方

### 3 車椅子操作体験（段差、スロープ、砂利道）

・ 2人1組になり段差、スロープ、砂利道、細い道を体験（利用者役、介護者役両方体験）

### ③車いすで街にでてみよう

#### 【授業概要】

|         |                                                                                                                                                                                                                                           |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日 時     | 令和 5 年 9 月 21 日（木） 8：45～12：35                                                                                                                                                                                                             |
| 場 所     | 北海道介護福祉学校、栗山公園                                                                                                                                                                                                                            |
| 対 象 者   | 北海道栗山高等学校 1 年生（47 名）<br>北海道介護福祉学校 1 年生（19 名） 計 66 名                                                                                                                                                                                       |
| 担 当 者   | 北海道介護福祉学校専任教員、非常勤講師および高専連携支援員                                                                                                                                                                                                             |
| 内 容     | 移動をとまなう介護の体験、車椅子で町内を外出                                                                                                                                                                                                                    |
| スケジュール  | 9：00 講義・説明（外出する目的、外出にあたっての注意点）<br>9：30 栗山高等学校学生 介護福祉学校出発<br>9：45 北海道介護福祉学校学生 介護福祉学校出発<br>9：50 園内車椅子散策（歩道及び舗装路、勾配、砂利道の移動体験）<br>11：00 栗山高等学校学生 栗山公園出発<br>11：10 北海道介護福祉学校学生 介護福祉学校出発<br>11：15 振り返り、まとめ<br>12：10 終了<br>※園内車椅子散策に関しては、文末の備考欄参照 |
| 使 用 物 品 | 【北海道介護福祉学校備品等】<br>車椅子 22 台（予備 3 台）、空気入れ 1 台                                                                                                                                                                                               |

#### 【留意点】

- この体験を通して何を学ぶのか
  - ①高齢者の気持ちになって必要なことは何か？
  - ②介護者の気持ちになって必要なことは何か？

#### 【使用資料（パワーポイント一部抜粋）】

|                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                           |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>＜ 高齢者にとっての外出の目的 ＞</p>  | <p>＜ 大事なポイント ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブレーキの確認</li> <li>・フットサポートに足を乗せ深く座る</li> <li>・アームサポートにしっかりと掴まる</li> </ul>  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                   |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>&lt; 車いすを使った外出のお手伝い &gt;</p> <p>【外出計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●車いすでの移動が可能かどうか<br/>→トイレ・スロープや段差・休憩場所</li> <li>●距離と移動時間・移動方法</li> <li>●天候と持ち物</li> </ul> | <p>&lt; 前回の車いすの授業で気になったこと &gt;</p> <p>・段差および車いす同士の衝突・走って押す</p>  |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### 【授業の様子】



### 【備考】

#### 1 栗山公園での流れ

・北海道介護福祉学校学生 1 名＋栗山高等学校学生 2～3 名がペアになり（全 19 グループ）

- ・介護学生が筆頭となり車椅子の操作方法を指導
- ・19 グループが 1 列になり移動

前方（北海道介護福祉学校専任教員）、中間（高専連携支援員）、後方（非常勤講師）に職員配置

・第三駐車場⇄野球場観覧席付近⇄野球場横ベンチを往復し、利用者役、介護者役の両方を体験

#### 2 栗山公園に行くうえでの注意点

- ・事故やトラブルが無いよう、安全面での介護を最優先して行う。
- ・他の園者の移動の妨げにならぬよう、整列と前後の車間距離を保ちながら移動する。

#### ④高齢者とのコミュニケーション

##### 【授業概要】

|         |                                                                                                                                                                                 |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日 時     | 令和 5 年 10 月 5 日（木） 11：45～12：35                                                                                                                                                  |
| 場 所     | 栗山高等学校 視聴覚室                                                                                                                                                                     |
| 対 象 者   | 北海道栗山高等学校 1 年生（50 名）                                                                                                                                                            |
| 担 当 者   | 北海道介護福祉学校学校長および高専連携支援員                                                                                                                                                          |
| テ ー マ   | 高齢者とのコミュニケーション                                                                                                                                                                  |
| スケジュール  | 11：45 講義：年を取ると変わる体の動き<br>演習Ⅰ：人の前を通る時<br>演習Ⅱ：相手に何かを伝える時<br>講義：コミュニケーションについて<br>演習Ⅲ：気持ちのいい挨拶<br>演習Ⅳ：気持ちのいい言葉<br>講義：施設を訪問する時に気を付けてほしいこと<br>12：35 終了<br>※体験演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ及びⅣに関しては、文末の備考欄参照 |
| 使 用 物 品 | 【栗山高等学校学校備品等】<br>プロジェクター1 台                                                                                                                                                     |

##### 【授業の様子】



##### 【備考】

###### 1 演習Ⅰ

①俯いて座っている方に対して歩きながら挨拶する

②俯いて座っている方に対して立ち止まり名前を呼んでから挨拶する

※①と②の違いを見て自分だったらどう感じるかを考えてもらう

###### 2 演習Ⅱ

①紙に「私は将来/〇〇で活躍する/〇〇に/なることです」と4つに分けて記載する

②2人1組になり、記載した紙を丸めて相手に投げる

③受け取った人が紙を広げてみた時に何が伝わるのか（全て受け取れない場合もある）

### 3 演習Ⅲ

- ①2人1組になり笑顔を作る
- ②一緒に楽しく過ごそうという気持ちを込めて相手と5秒間目を合わせる
- ③互いに「〇〇さんこんにちは」とはっきりと明るい声で挨拶する

### 4 演習Ⅳ

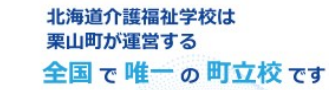
- ①2人1組になり笑顔を作る
- ②一緒に楽しく過ごそうという気持ちを込めてスライドに出てくる言葉を伝える  
(例：よろしく)
- ③役割を交代してもう一度行う

## ⑤介護福祉学校見学と高齢者施設見学

### 【授業概要】

|   |   |                                |                                                                                                                                            |
|---|---|--------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日 | 時 | 令和5年10月10日(火)、11日(水)           | 10:45～12:35                                                                                                                                |
| 場 | 所 | 特別養護老人ホームくりのさと、北海道介護福祉学校       |                                                                                                                                            |
| 対 | 象 | 北海道栗山高等学校1年生(46名)              | 10日1年1組23名、11日1年2組23名                                                                                                                      |
| 担 | 当 | 北海道介護福祉学校専任教員2名、事務局長および高専連携支援員 |                                                                                                                                            |
| テ | ー | 栗山町内の社会資源の見学と理解                |                                                                                                                                            |
| ス | ケ | ジュール                           | 10:45 特別養護老人ホームくりのさと見学<br>11:45 北海道介護福祉学校 学校説明<br>12:05 校内案内、カリキュラムにおける一部体験<br>12:20 2年間の学校生活の紹介<br>12:35 終了<br>※学校説明および一部体験に関しては、文末の備考欄参照 |
| 使 | 用 | 物                              | 品                                                                                                                                          |
|   |   |                                | 【北海道介護福祉学校備品等】<br>特浴機器、ナノミストバス、モニター1台                                                                                                      |

### 【使用資料(パワーポイント一部抜粋)】

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                       |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
|  <p>北海道介護福祉学校は栗山町が運営する全国で唯一の町立校です。</p> <p>●校 名：令和5年4月1日<br/>●学 科：介護福祉学科<br/>●設置場所：介護福祉士国家試験受験資格・レクリエーションインストラクター国家試験講習修了証<br/>●修学年限：2年<br/>●学 費：専門課程<br/>●学 費：44,000円/学年<br/>●学 費：175,000円(2年間・入学金及びその他諸経費含む)<br/>●卒業人数：2,285人(令和4年度卒業生まで)</p> |  | <p><b>他校にはない栗山だけの学び</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>●介護福祉科目(1,850時間)+国家試験対策<br/>国家資格取得を目指す専門的な知識と技術の学び</li><li>●地域活動研究(30時間)<br/>まちをフィールドに地域福祉の課題を考える学び</li><li>●キャリア形成支援講座(40時間)<br/>専門職としての自分の将来を考える学び</li></ul> <p>介護福祉士国家試験受験資格(介護士・福祉士)取得<br/>介護福祉士国家試験受験資格(介護士・福祉士)取得<br/>介護福祉士国家試験受験資格(介護士・福祉士)取得<br/>介護福祉士国家試験受験資格(介護士・福祉士)取得</p> <p>介護福祉士国家試験受験資格(介護士・福祉士)取得<br/>介護福祉士国家試験受験資格(介護士・福祉士)取得<br/>介護福祉士国家試験受験資格(介護士・福祉士)取得<br/>介護福祉士国家試験受験資格(介護士・福祉士)取得</p> |  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|



### 【授業の様子】



学校説明



特浴機器体験



ナノミストバス体験

### 【備考】

#### 1 学校説明

北海道介護福祉学校事務局長より以下の内容について説明した。

- ①現代の介護問題について（少子高齢化社会）
- ②介護福祉士の仕事について
- ③本校の特徴について（学費、独自のカリキュラム、国会試験合格率、就職率、編入率）
- ④栗山町について（アクセス、町の特徴、学生寮・アパート・下宿について）

#### 2 一部体験

##### （１）特浴機器体験

実際にどのような介護場面で使用されるものなのか、機械の特徴、機械の操作方法

##### （２）ナノミストバス体験

実際にどのような介護場面で使用されるものなのか、機械の特徴、使用することでどのような効果をもたらすのか

## ⑥視覚障害者体験

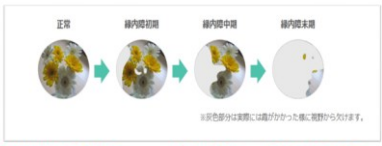
### 【授業概要】

|         |                                                                                                                                                                               |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日 時     | 令和 5 年 11 月 6 日（月） 13：20～15：10                                                                                                                                                |
| 場 所     | 北海道介護福祉学校 205 教室、講堂                                                                                                                                                           |
| 対 象 者   | 北海道栗山高等学校 1 年生（43 名）                                                                                                                                                          |
| 担 当 者   | 北海道介護福祉学校専任教員および高専連携支援員                                                                                                                                                       |
| テ ー マ   | 視覚に障がいのある人を理解する                                                                                                                                                               |
| スケジュール  | 13：20 全体講義：視覚障がいがある人の状態像<br>13：40 体験演習Ⅰ：①見え方の違い体験<br>②白杖を使った歩行体験<br>14：10 休憩<br>14：20 体験演習Ⅱ：手引き歩行の体験（階段昇降、椅子への着座）<br>14：50 全体のまとめ：感想、意見交換<br>15：05 終了<br>※体験演習Ⅰに関しては、文末の備考欄参照 |
| 使 用 物 品 | 【北海道介護福祉学校備品等】<br>アイマスク 16 枚、視覚障がい体験ゴーグル 3 セット、白杖 25 本<br>絨毯 3 枚、段差 3 個、パイプ椅子 3 脚                                                                                             |

### 【留意点】

- この授業を通して考えるテーマ
  - ①見えにくいことで、どのような気持ちになるのだろうか？
  - ②見えにくいことで、生活の中でどのような影響があるのだろうか？
  - ③目の健康を保つためにはどのようなことが必要なのだろうか？
 これらを発表させ、全体で意見を共有した。

### 【使用資料（パワーポイント一部抜粋）】

|                                                                                                                                      |                                                                                                                                           |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>見え方① 白内障</b></p>  <p>目のかすみ・色彩の変化・複視・羞明感</p> | <p><b>見え方② 緑内障</b></p>  <p>視野狭窄が進行・・・眼痛が伴い、失明に繋がる</p> |
| <p>生活の中で必要なこと・理解すべきこと①</p>                        | <p>生活の中で必要なこと・理解すべきこと③</p>                            |

## 【授業の様子】



講義



白杖を使った歩行体験



手引き歩行体験

## 【備考】

### 1 白杖とは

(1) 全盲、弱視、視野障がい、低視力などの視覚障がいのある方が、歩行する時に使用する白い

杖のことをいう。

情報（周りの状況把握）、安全（身体の安全）、シンボル（自分の存在を知らせる）といった

3つの機能がある。

### (2) 留意点（手引き歩行ガイドヘルプ）

- ①利用者の正面から声をかける
- ②手の甲で合図をし、斜め前に立ち、肘をつかんでもらう
- ③狭いところは肘を曲げる
- ④動くとき、曲がる時は状況を分かりやすく説明する
- ⑤障害物の前では一旦対しする
- ⑥椅子やテーブル等には、実際に手で触れてもらう
- ⑦階段では、手すりに掴まり歩いてもらう

※講堂にて2人1組になり、1人が利用者役としてアイマスクを着用し、もう1人がガイドヘルプ役として絨毯や段差等の障害物を越えて椅子に座るという一連の流れを体験してもらった。

### 白杖の実物



長さ1m～1.4m程度のものが一般的。脇の下までの長さのものを選定し、使用する。

### 視覚障がい体験ゴーグルの実物



白内障や緑内障の方の物の見え方が体験出来るもの。

## ⑦パラスポーツ体験

### 【授業概要】

|         |                                                           |             |
|---------|-----------------------------------------------------------|-------------|
| 日 時     | 令和 5 年 11 月 10 日（金）                                       | 13：20～15：10 |
| 場 所     | 栗山スポーツセンター                                                |             |
| 対 象 者   | 北海道栗山高等学校 1 年生（50 名）<br>北海道介護福祉学校 1 年生（19 名）、2 年生（22 名）   | 計 91 名      |
| 担 当 者   | NP0 法人 あ・りーさだ関係者                                          |             |
| テ ー マ   | 地域共生社会におけるパラスポーツ等を体験する                                    |             |
| スケジュール  | 13：20 講話<br>13：50 体験                                      |             |
|         | ①パラスポーツで使用する用具乗車体験<br>②シッティングバレー<br>③ブラインドサッカー<br>④ボッチャ   |             |
|         | 15：10 終了（介護学生は 16 時まで参加）                                  |             |
|         | ※体験演習①、②、③及び④に関しては、文末の備考欄参照                               |             |
| 使 用 物 品 | 【北海道介護福祉学校備品等】<br>プロジェクター1 台、マイク、スクリーン<br>【栗山スポーツセンター備品等】 |             |

### 【授業の様子】



乗車体験



シッティングバレー



ボッチャ

### 【備考】

#### 1 目的

- ①共生社会を目指す視点で、誰もが共に楽しめるスポーツを知る。
- ②パラスポーツを実際に体験し、障がい者スポーツの実際を学ぶ。

※4 つのブースに分け、時間ごとにそれぞれのブースをまわり体験する。

#### 2 体験

- ①乗車体験
- ②シッティングバレー

・座った姿勢で行うバレーボール。健常者も脚に障がいを持った人も共に楽しむことが出来る。

The diagram illustrates the layout of a volleyball court. Key dimensions and labels include:

- Net Height (ネットの高さ):**
  - Men (男子): 1.15m
  - Women (女子): 1.05m
- Front Zone (フロントゾーン):** The area between the net and the 3m line.
- Back Zone (バックゾーン):** The area between the 3m line and the end line.
- 3m Line (3m):** The line separating the front and back zones.
- End Line (エンドライン):** The back boundary of the court.
- Side Line (サイドライン):** The side boundary of the court.
- Center Line (センターライン):** The line in the middle of the court.
- Dimensions:**
  - Net Height: 1.15m (Men), 1.05m (Women)
  - Front Zone Height: 2m
  - Back Zone Height: 3m
  - Court Width: 6m

1セット 25 ポイント先取の 5 セットマッチで 6 人制で行う。  
ネットの高さは男子 1.15m、女子 1.05m。

・ゴールキーパー以外が全盲の選手で、アイマスクを装着し、音の出るボールを用いてサッカーをする。

Diagram illustrating the court layout and player positions for a 3-on-3 basketball game. The court is divided into three main sections: the key (free-throw line area), the three-point arc, and the backcourt. The diagram shows the following elements:

- キーパー (Keeper):** Positioned at the top center, responsible for the basket.
- 監視 (Monitoring):** A team leader (blue) and an MFC leader (black) are positioned on the left side, observing the game.
- フィールドプレイヤー (Field Player):** A player (blue) is positioned in the key area, responsible for passing the ball.
- アーマスク (Arm Guard):** A player (black) is positioned in the key area, responsible for blocking the ball.
- 最速の出るボール (Fastest ball out):** A ball is shown in the key area, indicating the starting point of the play.
- サイドラインには観客の姿が見える (Spectators are visible on the sideline):** A note indicating the location of the spectators.
- ポイント・オブ・アタック (Point of Attack):** A note indicating the location of the attack, specifically the position of the ball and the angle of the shot.

使用されるボール



・年齢、性別、障がいのあるなしに関わらず、全ての人が一緒に競い合えるスポーツ。  
2 チームに分かれ赤または青の革製ボールを 6 球ずつ投げ、「ジャックボール」と呼ばれる白い目標  
球にどれだけ近づけられるかを競う競技。

先攻、後攻が 1 球ずつ投げた後ジャックボールから遠いチームが相手よりも近づくか、ボールがなくなるまで投げる。  
両チームが 6 球全て投げ終わったら審判が得点を判定する。

## ⑧パラスポーツ体験

### 【授業概要】

|         |                                                                                                                                                                                               |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日 時     | 令和 5 年 12 月 6 日（水） 13：20～15：10                                                                                                                                                                |
| 場 所     | 北海道栗山高等学校 体育館                                                                                                                                                                                 |
| 対 象 者   | 北海道栗山高等学校 1 年生（47 名）<br>北海道介護福祉学校 1 年生（18 名） 計 65 名                                                                                                                                           |
| 担 当 者   | 北海道介護福祉学校専任教員および高専連携支援員                                                                                                                                                                       |
| テ ー マ   | パラスポーツを通して「できる可能性」を考える                                                                                                                                                                        |
| スケジュール  | 13：20 全体説明・講義<br>13：30 体験演習Ⅰ：ブラインドマラソン（並走・伴走体験）<br>14：00 グループワークⅠ：体験演習を終えての気づきと感想<br>14：10 休憩<br>14：20 体験演習Ⅱ：インディアカ<br>15：00 グループワークⅡ：体験演習を終えての気づきと感想<br>15：10 終了<br>※体験演習ⅠおよびⅡに関しては、文末の備考欄参照 |
| 使 用 物 品 | 【北海道介護福祉学校備品等】<br>アイマスク 16 枚、インディアカ 20 個、きずな 20 本、電子ホイッスル<br>ストップウォッチ<br>【栗山高等学校備品等】<br>バドミントン（ネット 4 張）、コーン 8 個、プロジェクター 1 台                                                                   |

### 【留意点】

- 1 グループワークを実施する上でのテーマ  
①パラスポーツにはどのような人たちが参加・交流が出来るのだろうか？  
②今回の内容を実施するために「配慮」すべきことは何か？  
③私たちがパラスポーツを知ったことで、今後に生かせることは何か？  
これらをグループで協議・発表させ、全体で意見を共有した。

### 【使用資料（パワーポイント一部抜粋）】

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>日本のパラスポーツ誕生の契機（一部抜粋）</b></p> <p>【第二次世界大戦後】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・身体障害者福祉法の成立（1949年）<br/>戦争により多くの傷を負った人への日常生活や社会生活を総合的に支援する政策</li><li>・1960年 中村 裕医師（整形外科医）が英国の留学を契機に、リハビリテーションの一環としてのスポーツを提案し、車いすの人が参加できる競技として国内大会の開催、1964年の東京パラリンピックの開催に尽力した。パラスポーツの父と呼ばれている。</li></ul> <p>※ paraplegia：対麻痺（身体障害による） 「Paralympic Games」</p> <p>※ Olympics：オリンピック</p> | <p><b>スポーツそのものの多様性</b></p> <p>【ニュー スポーツ】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・子どもから高齢者まで参加でき、簡単にアレンジされているスポーツをいう。レクリエーションとしても実施できる。</li></ul> <p>【パラ スポーツ】 para（並行する）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・障がい者（身体・知的・精神）が行えるスポーツを改定、考案しながら、誰もが参加し、楽しめるものをいう。</li></ul> <p>【アダプテッド スポーツ】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・誰もが参加しやすいように、ルールや用具を工夫し、適合（adapt）させたスポーツをいう。</li></ul>  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 【授業の様子】



ブラインドマラソン



インディアカ



グループワーク

## 【備考】

### 1 ブラインドマラソンとは

(1) 視覚障がい者が行うマラソン競技。「きずな」を使用し視覚障がい者と伴走者が一緒に走る。

(2) 伴走者の役割…①障がい者ランナーの安全確保・状況説明

②理想のフォームで走ってもらえるような伴走

③走路、ペースなどの指導と楽しく、楽に走れるようなエスコート

④タイムなどの記録

(3) 留意点

障がい者ランナーは足元の不安から歩幅が狭くなりがちなので、伴走者は少しでもその不安を和らげ、安心して走れると感じてもらうことが必要（信頼）。手の振り、スピードを合わせてほしいが言い出せないこともあるので、相手が言いやすい雰囲気づくりを考える（気遣い）。

※きずなとは伴走時、障がい者ランナーと伴走者を繋ぐもの



きずなの実物

約 1 メートルの長さの紐を輪にして使用する。



きずなの代用品

今回は輪ゴムを 3 つ組み合わせて作成して代用した。

写真下…50 cm 定規

### 2 インディアカとは

羽根のついたシャトルcock上のボール（羽根つきボール）を、平手で打ってネットを挟んで対峙した 2 チームが、互いに平手で打ちあう団体競技。サーブから初め、レシーブ・トス・アタックの三段構造で敵陣に 3 回以内でボ

インディアカ写真

ールを返す。

※今回は 8～9 人グループを 8 つ作り、バドミントンコート  
を半面ずつ使用し、各グループに 2～3 個羽根つきボール  
を配布し実施した。



## ⑨福祉・介護の ICT 化を知る

### 【授業概要】

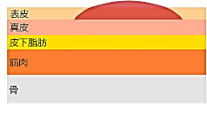
|        |         |                                             |                 |
|--------|---------|---------------------------------------------|-----------------|
| 日      | 時       | 令和 6 年 2 月 5 日 (月)                          | 13 : 20～15 : 10 |
| 場      | 所       | 北海道介護福祉学校                                   |                 |
| 対 象 者  |         | 北海道栗山高等学校 1 年生 44 名、                        |                 |
| 担 当 者  |         | 介護福祉学校専任教員、高専連携支援員<br>および特別養護老人ホーム南幌みどり苑施設長 |                 |
| テ ー マ  |         | 変化してゆく福祉・介護の現場<br>～高齢者施設の実践・ICT 化から考える事～    |                 |
| スケジュール | 13 : 20 | 南幌みどり苑 佐久間施設長                               | 講義              |
|        | 14 : 10 | 講義終了                                        |                 |
|        | 14 : 20 | 福祉機器見学・体験                                   |                 |
|        |         | 1 組：移乗・移動関連用具 (第 2 介護実習室)                   |                 |
|        |         | 2 組：移動用リフト実演・体験 (第 3 介護実習室)                 |                 |
|        | 14 : 45 | 福祉機器見学・体験                                   |                 |
|        |         | 2 組：移乗・移動関連用具 (第 2 介護実習室)                   |                 |
|        |         | 1 組：移動用リフト実演・体験 (第 3 介護実習室)                 |                 |
|        | 15 : 10 | 終了                                          |                 |

※福祉機器見学・体験に関しては、文末の備考欄参照

### 使 用 物 品 【北海道介護福祉学校備品等】

プロジェクター1 台、電動ベッド 3 台、シーツ 3 枚、枕 3 個、枕カバー3 個、スライディングボード 5 枚、スライディングシート 1 枚、標準型車いす 2 台、モジュール型車いす 3 台、リクライニング車いす 1 台、多機能型歩行車 1 台、室内用歩行器 1 台、床走行式リフト 1 台、スリングシート 1 枚、エアマット 1 台、センサーマット 1 台、エアークッション 1 個、ビーズクッション 2 個、棒座 2 個、ビーズスティック 2 個、クッション 2 個、抱き枕 1 個、椅子 1 脚

## 【使用資料（パワーポイント一部抜粋）】

|                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>本日のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福祉用具は、誰の、何のためのものかを考えてみましょう。</li> <li>見学や体験を通して、使う人にとってどのような目的や効果があるのかを考えてみましょう。</li> <li>今、私たちが出来ること、行うべきことは何かを考えてみましょう。</li> </ul>                                                             | <p>【備考】床ずれが発生しやすい部位（仰向け）</p>  <p>皮膚の構造(断面図)</p>                                                             |
| <p>床走行式 電動介護用リフト</p> <p>【状態像】<br/>ベッドからの起き上がりや立ち上がり、歩行が困難な人</p> <p>【使用すべき場面】<br/>ベッド ⇄ 車いす等、<b>移動動作が必要なとき</b></p>  <p>【効果】<br/>吊り具を使用して移動することで、介護者、利用者の身体的負担が軽減</p> | <p>スライディングシート</p> <p>【状態像】<br/>自力で移動することが困難な方</p>  <p>【使用すべき場面】<br/>覆返りや車椅子、ストレッチャーなど<b>移乗・移動動作が必要なとき</b></p> <p>【効果】<br/><b>自分の力を活用ながら移動できる</b>（上方移動など）<br/>また、摩擦などの<b>負担がなく安全に移動できる</b></p> |

## 【授業の様子】



講義



移動用リフト実演・体験



床ずれ防止用具



移乗・移動関連用具



移乗・移動関連用具



移乗・移動関連用具

## 【備考】

### 1 離床センサー（シート・マットタイプ）

|                                                                                     |                                                                                                                        |
|-------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <p>ベッドからの起き上がりや、立ち上がりに不安がある方などが使用する。病院や施設などのベッドに付属し、身体動作をセンサーで感知して介護者に知らせ、移動動作の見守りを行う。使用することでベッドからの転落や転倒を防ぐことが出来る。</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 2 エアーマット（床ずれ防止用具）



病気や治療により、ベッド上での寝たきりが続き、寝返りが困難な方などが使用。使用することで寝ている状態により、かかる体圧を分散し皮膚の圧迫を避ける。  
使用することでベッド上で過ごす時間が増えても、床ずれを防止することができる。

## 3 ビーズクッション（床ずれ防止用具）



病気や治療により、ベッド上での寝たきりが続き、寝返りが困難な方などが使用。使用することで寝ている状態により、かかる体圧を分散し皮膚の圧迫を避ける。  
使用することで関節部位の筋緊張を和らげながら、床ずれを防止することができる。

## 4 床走行式電動介護用リフト



ベッドからの起き上がりや立ち上がりが困難な方などが、ベッドから車いすなど移動動作が必要なときに使用する。釣り具を使用して移動することで、介護者と利用者の身体的負担が軽減される。

## 5 電動ベッド



休息や睡眠を図る時、生活動作（食事や口腔ケア）をする時などに使用する。背上げ機能や足上げ機能・上下機能の活用により寝たきりを防止し、ベッド上で行えることが増える。また、介護者の負担軽減にもつながる。

## 6 スライディングボード



膝や股関節に痛みがあり、立ち上がりが困難な方などが使用する。車椅子からベッド、椅子、トイレ、車などに座った状態でお尻を滑らせ、自分の力を活用しながら移乗することができる。

## 7 スライディングシート



自力で移動することが困難な方などが移動する使用。自分の力を活用しながら寝返りや車いす、ストレッチャーなどへ移動することができる。

## 8 モジュール型車いす（最新型）



長時間の歩行が困難な方などが移動する際使用。背張り機能や座面の高さ調節などがついているため、自分に合った車いすに変えることができる。長時間安定して乗ることが出来るため、外出先が増え行動範囲を広げる支援につながる。

## 9 リクライニング車いす



全介助や血圧に変動のある方（長時間座っているのが困難）などが移動する際使用。フラットな状態にできるので、寝たきりの方でも車椅子を使用することで外出先が増え、寝たきりを防止できる。

## 10 多機能型歩行車



一人で歩くのは困難だが、何かに掴まりながら歩行できる方などが室内、外で歩く際使用する。前輪がダブルキャスターになっているため、外出先で地盤が悪いところでも安定して移動することができ、椅子がついているため小休憩をとることもできる。

## 11 室内用歩行器



一人で歩くのは困難だが、何かに掴まりながら歩行できる方などが移動する際室内で使用。軽くて小回りが利くので、室内でも転倒リスクが少なく移動することができる。

※各福祉用具に 4～5 名高校生を配置し、ローテーションしながら全福祉用具を体験する

実証授業として実施した①～⑨の授業概要は上記のとおりであるが、これ以外にも資料した資料があるため、それらは別紙添付とする。

## (5) 実証授業の振り返り：高校生の自由記載

### ①介護実技体験をとおして

全体を通して、介護をする際に必要なことや意識すること、高齢者や介護者の気持ちなどを深く考えることができた。また、車椅子の使い方を細かいところまで学び実際に使ってみて意外と力を使うことや少しの段差でも気をつけないといけないことがわかった。今までは屋内で体験することが多く、そのようなことは気にならなかったが屋外でやってみると体験してみえたことやいろいろな気づきがあった。車椅子を使う人が心地よく過ごすために、スロープやトイレなどが色んな場所にあたりまえにある環境をつくったりすべての人が車椅子のことやその使用者の人たちのことを理解していくことが大切だと思った。自分自身も今回学んだことを活かし、介護のことをより理解していこうと思った。

高齢者と自分たちでは周りの見え方が違って見えて床との距離が近いから怖いと思った。  
よりよい生活になるために、もっと介護者の人材を増やし、よい車椅子を作ることがいいと思った。  
日頃から健康で動いて将来健康なからだで過ごしたいです。

車椅子を押す際は、乗るときから、乗っている間、乗り終わるまで注意すべきことがたくさんあることがわかりました。また、車椅子の乗り降りで大切なのはブレーキであることもわかりました。また、実際に車椅子を外で押してみ、普段はあまり気にしないちょっとした段差が、車椅子ユーザーの人にとっては大きなものなんだと気づきました。そして、今回の実習を通して改めて介護の大変さがわかりました。

・車いすを実際に体験してみて、普段は気にならない段差や坂道にも気をつけたり、高齢者に声をかけてあげることが大切だと改めて知った。最初は介護は難しそうや大変そうというイメージがあったけど、たくさんの方とコミュニケーションをとることができるし、たくさんのことを学ぶことができる、やりがいがある仕事なんだと知ることができた。

車椅子を押すのには力や集中力が必要だと思いました。今までは室内で車椅子に乗っていたので、街に出てみると結構バリアが多いんだということを知りました。  
段差や砂利道、坂が多いところに行くと、乗っている人も押している人も疲れやすいんじゃないかなと思いました。溝があるところは斜めに入る  
より良い生活になるためには、バリアフリーを増やしたり、振動を受けにくい車椅子などがあつたらいいんじゃないかなと思いました。溝を少なくしたり、道の脇にする

車椅子に実際に乗ってみて、乗らないと気づけないようなことが結構ありそうだなとおもった  
車椅子に乗っている人でもそうでないひとでも、だれもが住みやすいまちづくり、人間関係づくりをするには、まず介護や福祉について知り、お互いを理解し合おうとする姿勢が大事だと思う

最初は、高齢者を助けるだけなら誰でもできるし、車椅子を押すのだって簡単だと思ってたけど、そんな誰でもできるわけじゃないし、たとえできたとしても、ちゃんとした介護をやったことない人に高齢者は安心できない。

### ②自由記載のまとめ

・実体験を伴う授業により、学びの深まりがある。振り返りシートからは「知っているつもりから実際へ」と内容の深まり、関連付け、思考の変容がみられている。

- ・自分の進路選択（高校選択）を肯定的に捉えている様子がある。
- ・「まちづくり」「公共の設備」に関連する気づきの記述がある。
- ・コミュニケーションや言葉をかけること、確認することへの気づきと、意思を伝えることの大切さを理解しつつある記述がある。
- ・介護人材の必要性についての記述もある。
- ・授業環境を変化させ、専門の機器類を活用しての授業は驚きや感心がある。そこから「介護福祉士」を目指したいという学生も数名みられる（OC参加）。
- ・高校生と介護学生の合同授業では、交流しながら取り組む姿も見られてきた（専門学校生がロールモデルの可能性）。
- ・体験により「一人称→二人称→三人」としての捉えの変化と、「知っているつもりから実際・実態へ」はキャリア教育の要素もある。

### ③介護学生へのヒアリングより

- ・半学半教を体験することで今後、実践で求められる体験ができる。
- ・何度か接点を持つことで、参加している高校生と接点が作りやすいようだ。
- ・自分自身の進路選択の原点を振り返る機会にもなっている。

### ④教職員へのヒアリングより

- ・生徒がいきいきと学び、さまざまな「気づき」が刺激されている様子がある。
- ・共生の視点を横断的に学べる（上記、高校担当教員より）。
- ・現段階では関与している教員に限られてしまうが、これまでとは違った関係ができつつある。
- ・双方が持つネットワークを活用できるようになってきている。
- ・学校間での備品等の貸し借りなども含め、相互の人的・物的資源を活用できる。

### ⑤今後の課題

- ・振り返りシートの内容を高校生にフィードバックさせる方法の検討が必要。
- ・高校生の気づきによる課題（例：バリアフリー）が、一部であっても実際に改善
- ・解決されたりすれば、「町づくり」に関与しているという実感が生まれる。

## （６）受講生に対するアンケート調査

1年次の栗山と福祉終了後、高校側の協力により参加生徒に対してアンケート調査を実施した。目的としては、一年間の理解度を図ると共に、福祉や介護に対する興味・関心度を考察し、今後の高専一貫プログラム開発・実証事業に反映することを目的として実施した。あわせて、高校教職員の授業に対するコメントを自由記載方法でいただくことにした。

調査票および集計結果については、次のとおり

## 「栗山と福祉」振り返りアンケート

（令和5年度）

「栗山と福祉」の一年間振り返り、以下の質問についてA、B、C、Dのいずれか一つの欄に○をつけてください。

（A：そう思う、B：どちらかというと思う、C：どちらかというと思わない、D：そう思わない）

### I 福祉・介護への関心（入学時）

| 質 問 内 容                  | A | B | C | D |
|--------------------------|---|---|---|---|
| ① 入学前から、福祉・介護に興味・関心があった。 |   |   |   |   |

### II 「栗山と福祉」の一年間を振り返って

| 質 問 内 容                           | A | B | C | D |
|-----------------------------------|---|---|---|---|
| ① 高齢者や障害者のことについて理解できた。            |   |   |   |   |
| ② 人を区別することなく、人を大切にすることが重要だと思った。   |   |   |   |   |
| ③ 福祉や介護のことをもっと詳しく知りたいと思うようになった。   |   |   |   |   |
| ④ 福祉や介護だけでなく、様々なことを知りたいと思うようになった。 |   |   |   |   |
| ⑤ 自分の将来（進路）を考えるきっかけになった。          |   |   |   |   |

### III 1年間での自分自身の変化

| 質 問 内 容                            | A | B | C | D |
|------------------------------------|---|---|---|---|
| ① 「栗山と福祉」の授業を受けてから、福祉や介護への関心が高まった。 |   |   |   |   |
| ② 自分のことだけでなく、他者のことを考えるようになった。      |   |   |   |   |
| ③ 誰もが暮らしやすい地域・生活について考えるようになった。     |   |   |   |   |
| ④ 自分の「ふるさと」を大切にしていきたいと思うようになった。    |   |   |   |   |

【自由記載】

# ①高校生に対するアンケート調査結果

## 栗山と福祉アンケート結果（2/14集計値）

### I 福祉・介護への関心（入学時）

| ① 入学前から、福祉・介護に興味・関心があった |                    | 回答数 | 率   |
|-------------------------|--------------------|-----|-----|
| 選択肢                     | A そう思う             | 5   | 10% |
|                         | B どちらかというと思う       | 17  | 33% |
|                         | C どちらかというと思うそう思わない | 19  | 37% |
|                         | D そう思わない           | 10  | 20% |

### II 「栗山と福祉」の一年間を振り返って

| ① 高齢者や障害者のことについて理解できた |                    | 回答数 | 率   |
|-----------------------|--------------------|-----|-----|
| 選択肢                   | A そう思う             | 34  | 67% |
|                       | B どちらかというと思う       | 16  | 31% |
|                       | C どちらかというと思うそう思わない | 1   | 2%  |
|                       | D そう思わない           | 0   | 0%  |

| ② 人を区別することなく、人を大切にすることが重要だと思った |                    | 回答数 | 率   |
|--------------------------------|--------------------|-----|-----|
| 選択肢                            | A そう思う             | 40  | 78% |
|                                | B どちらかというと思う       | 11  | 22% |
|                                | C どちらかというと思うそう思わない | 0   | 0%  |
|                                | D そう思わない           | 0   | 0%  |

| ③ 福祉や介護のことをもっと詳しく知りたいと思うようになった |                    | 回答数 | 率   |
|--------------------------------|--------------------|-----|-----|
| 選択肢                            | A そう思う             | 11  | 22% |
|                                | B どちらかというと思う       | 32  | 63% |
|                                | C どちらかというと思うそう思わない | 6   | 12% |
|                                | D そう思わない           | 2   | 4%  |

| ④ 福祉や介護だけでなく、様々なことを知りたいと思うようになった |                    | 回答数 | 率   |
|----------------------------------|--------------------|-----|-----|
| 選択肢                              | A そう思う             | 20  | 39% |
|                                  | B どちらかというと思う       | 21  | 41% |
|                                  | C どちらかというと思うそう思わない | 9   | 18% |
|                                  | D そう思わない           | 1   | 2%  |

| ⑤ 自分の将来（進路）を考えるきっかけになった |                    | 回答数 | 率   |
|-------------------------|--------------------|-----|-----|
| 選択肢                     | A そう思う             | 19  | 37% |
|                         | B どちらかというと思う       | 20  | 39% |
|                         | C どちらかというと思うそう思わない | 9   | 18% |
|                         | D そう思わない           | 3   | 6%  |

### Ⅲ 1年間での自分自身の変化

#### ① 「栗山と福祉」の授業を受けてから、福祉や介護への関心が高まった

|     |                    | 回答数 | 率   |
|-----|--------------------|-----|-----|
| 選択肢 | A そう思う             | 24  | 47% |
|     | B どちらかというと思う       | 19  | 37% |
|     | C どちらかというと思うそう思わない | 4   | 8%  |
|     | D そう思わない           | 4   | 8%  |

#### ② 自分のことだけでなく、他者のことを考えるようになった

|     |                    | 回答数 | 率   |
|-----|--------------------|-----|-----|
| 選択肢 | A そう思う             | 35  | 69% |
|     | B どちらかというと思う       | 12  | 24% |
|     | C どちらかというと思うそう思わない | 4   | 8%  |
|     | D そう思わない           | 0   | 0%  |

#### ③ 誰もが暮らしやすい地域・生活について考えるようになった

|     |                    | 回答数 | 率   |
|-----|--------------------|-----|-----|
| 選択肢 | A そう思う             | 27  | 53% |
|     | B どちらかというと思う       | 18  | 35% |
|     | C どちらかというと思うそう思わない | 5   | 10% |
|     | D そう思わない           | 1   | 2%  |

#### ④ 自分の「ふるさと」を大切にしていきたいと思うようになった

|     |                    | 回答数 | 率   |
|-----|--------------------|-----|-----|
| 選択肢 | A そう思う             | 28  | 55% |
|     | B どちらかというと思う       | 20  | 39% |
|     | C どちらかというと思うそう思わない | 3   | 6%  |
|     | D そう思わない           | 0   | 0%  |

これらの高校生へのアンケート調査から次のようなことがいえる。

設問1の「高校入学前から福祉・介護に対する興味関心」では、①そう思う 10%、②どちらかというと思う 33%、③どちらかというとは思わない 37%、④そう思わない 20%であり、1年間の受講を終了した結果を問う設問3の「栗山と福祉の授業を受けてから、福祉や介護への関心が高まった」では、①そう思う 47%、②どちらかというと思う 37%、③どちらかというとは思わない 8%、④そうとは思わない 8%、という結果になっている。

高校入学前の関心度は「①そう思う」②「どちらかというと思う」を合わせても半数に満たず（43%）、「③どちらかというとは思わない」「そう思わない」が半数以上となっている（57%）。

1年間終了後の関心の高まりの結果を見ると「①そう思う」「②どちらかというと思う」の割合が84%になっている。これらのことから、実際に授業を受けることで生徒の意識変化に影響を与えることがわかる。

また、「自分のことだけでなく他者のことを考えるようになった」という設問に関しては「そう思う」「どちらかというと思う」で93%となっている。同様に「誰もが暮らしやすい地域・生活について考えるようになった」という設問に関し

ては「そう思う」「どちらかというと思う」で 88%となっている。

これらの結果から、高校生の意識・関心・動機付けに対して一定程度の効果はあると考えられる。

一方、自由記載からは、次のような記述がある。

- ・障害者と呼ばれる人が困っていたら助けたい
- ・将来、仕事として介護にかかわらなくても、祖父母や父母の介護をすることになるので、そこで「栗山と福祉」で学んだことを活かせるようにしたい。
- ・将来介護福祉士になるとかより、社会に出るうえで身に付けておくべき介護のことを1年間学べてよかったし、これからも重要だと思った。
- ・最終的に福祉は感謝する、される、感動できる、カッコいい（胸を張れる）仕事だということが分かった。

以上のことから、進路選択に福祉や介護が資するか否かは別としても、人が生きる上で必要なことである、自分事として捉えるという視点がみられていると思われる。そのことから、キャリア形成にも連動する可能性がある。

## ② 高校教職員によるコメント

高校教員によるコメントでは、次のようなものがあった。

- ・このカリキュラムによって、生徒の考えが深化される取り組みになっていると実感します。
- ・高専連携が長く続くよう行内体制を整えて、次年度臨みたい。
- ・福祉は、今では失業リスクの少ない職業であり、就職先として魅力があると思います。
- ・授業を通して選択肢の一つになってくれればと思います。生徒の反応も悪くないと思います。
- ・福祉や介護はすべての国民が関わることであり、その基礎的知識や技術の習得は生徒にとって必要不可欠であると考えます。
- ・この学びは栗山だからこそできるわけで、高校と栗山町が一体となって、福祉や介護の学びに取り組むことは、とても意義のあることである。
- ・今後も福祉や介護の重要性を栗山がモデルになって広がっていくことを期待します。

以上のことから、高校教員も肯定的に捉えていること、今後これらをモデル的に展開してゆく必要性があることを認識している傾向があると思われる。

## ③ アンケート結果に基づく考察

本アンケートは1年間の経過を振り返った結果である。これらに、高校生がテーマごとに作成した振り返りシート等をどのように活用するかということが今後の課題である。そのうちのいくつかを挙げれば、

- ・高校生・介護学生の気づきの活用
- ・振り返りシートの内容を高校生にフィードバックさせる方法の検討が必要。

・ 高校生の気づきによる課題（例：バリアフリー）への取り組み  
などがある。一部であったとしても実際に改善・解決されたりすれば、「町づくり」に関与しているという実感が生まれる。

このようなことを意識したうえで次年度以降の実証授業を取り組む必要性がある。

### 3 高校教員との関係性の変化

本事業に取り組んだ令和4年度は、意識して情報交換等を実施してきたが、本年度2年目を迎えたことで、それぞれの担当教員が随時打合せ、調整を行うようになり関係性が良好な状況となっている。また、双方の人的物的な社会資源を有効活用する例に結びついたものもある。

一例を挙げるとすれば、高校体育の授業にアダプテッドスポーツが取り入れられるなど、この「栗山と福祉」に限らず横断的な取り組みもみられるようになった。また、そのような「栗山と福祉」の授業には直接的に該当しない授業であっても、相互に授業見学するなどの新たな展開もみられた。

### 4 本事業の取り組みの課題

本年度、実証授業を実施しながら随時、カリキュラムに修正をかけ、令和6年度以降を見据えて2年生、3年生のカリキュラムを修正した。また、令和6年度末で終了となる選択授業「生活と福祉」の内容を「栗山と福祉」のカリキュラムに含めるなどの形が出来上がった。

しかし、課題もいくつかあることに加え、本町及び本校は「介護人材確保に関する自治体包括連携協定」を北海道内で進めている（現在、10自治体と協定締結）。それらに関しても、本事業の活用の可能性を探る必要があることから、高専一貫による垂直的展開のある有機的連携による教育に加え、まずは段階的に「自治体包括連携協定」先にこの取り組みに関する情報発信を行うといった、水平展開も行うことが必要と考えている。

#### （1）事業の内容と実施に関して

##### ①アウトライン・スキームの確認と共有

- ・ 高校と本事業の目的・全体像、内容等に関する確認・調整が随時必要
- ・ 管理職との関係づくり
- ・ 地域の実態把握と、課題解決方法 に関する 学習についての検討
- ・ 専門職の給与条件、キャリアアップ等に関する高校教員等との情報共有
- ・ 課題の共有。令和6年度は「栗山と福祉」と「生活と福祉」の並行展開
- ・ 小中高専の連携による、一貫した福祉教育との連動

##### ②実施に向けた調整

- ・ 学校行事計画とのすり合わせ、相互理解の促進
- ・ 高校側と実施時期、内容等に関する調整が随時必要

- ・特に合同授業は学校行事・授業展開等を考慮しての実施
- ・授業時間の調整（高校は1コマ50分、養成校は1コマ90分）
- ・カリキュラム変更への対応

### ③教職員のサポート

- ・教職員の負担感の軽減
- ・人事異動（担任・担当教員、進路指導部）を視野に入れる

## （２）高校生・介護学生がともに感じるワクワク感

- ・高校生、介護学生との合同授業の継続実施
- ・専門職のキャリアアップ方法、就労状況等に関する学び
- ・福祉・介護専門職（若手）も交えた演習機会の創出
- ・介護学生や若手専門職をロールモデルに
- ・介護学生は半学半教の経験
- ・介護職員初任者研修や、国家資格取得への動機づけ
- ・福祉・介護と関連する領域との調整

## （３）垂直展開と水平展開に向けた整理

- ・自治体包括連携協定等を軸にした水平展開
- ・取り組み事例集の作成と配布
- ・北海道教育委員会からの協力・助言
- ・高等学校家庭科教員（部会）、福祉科を有する高校への情報提供等
- ・編入可能大学等との連携など

## 5 まとめ

本年度から開発した高専一貫プログラムの実証授業を実施した。カリキュラムに基づき展開したが、実施・検証→修正→企画調整→実施・修正といったPDCAを意識した取組を行うことで、実施しながらもより内容の高いカリキュラムと、3年間を見据えたプログラムであることから、令和4年度に作成したカリキュラムの修正もおこなうことができた。そのことから、今後も同様の取り組みを実施することにした。

また、高校生の福祉・介護に対する意識の変化を把握するためにも、継続して意識調査を実施し、学習による経年変化を調査するとともに、3年次では総合的な評価を行うことにしたい。

本校は「地域活動研究」「キャリア形成支援講座」を独自科目として栗山町をフィールドとした社会資源の活用も含めた教育活動を行っている。次年度、実証授業として実施する内容には、これらへの高校生の参加を計画している。そのことで本事業の目的である「地域の中核的人材育成」として展開することとしたい。加えて、介護学生が高校生のロールモデルになりえることと、介護学生は半学半教（学ぶ立場でありながら、教える立場も経験）の機会になりえることから、単に「栗山と福

祉」の授業展開に終始するのではなく、キャリア形成に関連付けする方法を模索することも課題として残されている。

あわせて高校専門学校の連携と一貫したプログラムを軸に、本町まちづくりの主要拠点である「北海道介護福祉学校」が核となり、地域における将来の介護人材の発掘育成を図り、介護人材が定着する環境づくりに貢献することで学校の存在価値を発揮、地域ニーズに呼応する学校へ深化しなければならないことも明確になっている。本事業で開発する地域での介護人材養成に向けたキャリア形成プログラムの実践により、本町における介護人材不足の解決はもとより、福祉教育を通して身に付けることができる豊かな人間性を育む人材養成を実現できることを目標に高専接続カリキュラム開発と検証・改善を行うことが求められると考察できる。

< 成果報告書 >

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、北海道栗山町が実施した令和4年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。

事業実施に伴うアウトプット（成果物）

- A 演習授業：R5. 9. 14 栗山と福祉「介護実技実習」
- B 高校生・介護学生合同授業（実地演習）：R5. 9. 21 栗山と福祉「車いすで町に出てみよう」
- C 出張講座：R5. 10. 5 栗山と福祉「高齢者とのコミュニケーション」
- D 1 演習授業：R5. 10. 10, 、11 栗山と福祉「学校紹介」
- D 2 演習授業：R5. 10. 10, 、11 栗山と福祉「学校生活紹介」
- E 演習授業：R5. 11. 6 栗山と福祉「視覚障害者体験」
- F 演習授業（R5. 12. 6 栗山と福祉「パラスポーツ体験」）
- G 1 来校型授業：R6. 2. 5 福祉・介護の ICT 化を知る
- G 2 来校型授業：R6. 2. 5 福祉・介護の ICT 化を知る
- G 3 来校型授業：R6. 2. 5 福祉・介護の ICT 化を知る
- G 4 来校型授業：R6. 2. 5 福祉・介護の ICT 化を知る
- H 出張講座：R5. 10. 13 生活と福祉「レクリエーション」
- I 来校型授業：R5. 6. 26 生活と福祉「ベッドメイキング」